

## 27AB-pm304

人体臓器観察（早期体験学習）を通してのヒューマニズム教育の検証

○和田 哲幸<sup>1</sup>, 中村 武夫<sup>1</sup>, 伊藤 栄次<sup>1</sup>, 松野 純男<sup>1</sup>, 大内 秀一<sup>1</sup>, 八軒 浩子<sup>1</sup> (<sup>1</sup>近畿大薬)

【目的】社会の要請に応えられる薬剤師養成において、知識のみならず、技能や態度を含む統合型教育の実施が重要である。薬剤師は生命に関わる職業人であり、6年制薬学教育においては、生命の尊さを認識し、医療における倫理の重要性を学ぶ必要があることより、薬学部に入學してきた学生の動機付け教育の一環として早期体験学習が実施されている。今回、医学部における人体臓器観察を通して、薬学生に対するヒューマニズム教育について検証を試みた。

【方法】薬学部の1年生を対象として、2015年度後期（10月）に近畿大学医学部解剖学教室の協力を得て、篤志献体による人体臓器観察を行なった。観察前後に参加学生（162名）に対し、自記式無記名アンケートを実施し、161名より同意・回答を得た。

【結果・考察】本体験学習実施以前に11名が人体臓器観察を体験していた。「人体臓器観察に対する不安さ」について、不安を感じていた学生は観察前で33.3%であったが、観察後は20.2%と減少していた。「観察したい臓器・印象に残った臓器」については、観察前では心臓・胃・肝臓が多く、胎児については少ない回答であった。しかし、観察後は胎児・四肢の回答が他の臓器に比べ多かった。このことより、個別臓器のみならず、全人的側面からの観察評価が向上したと思われる。「人体臓器観察が薬学教育に役立つか」については、観察前「思う」が74.4%から観察後は91.6%に増加しており、人体臓器観察の薬学教育への有用性が確認された。薬剤師として求められる豊かな人間性と高い使命感を醸成し、生命の尊厳について深く認識するヒューマニズム教育の初段階を実施できたと思われる。